

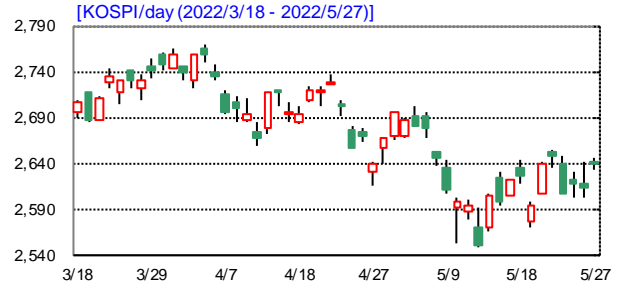


【韓国】 総合指数は 0.05%安とほぼ横ばい、今週は製造業 PMI などに注目

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 0.05%安とほぼ横ばい。方向感に乏しく、2600 ポイント台でもみ合う展開が続いた。週明け 23 日は続伸。訪韓したバイデン大統領が両国の経済連携の方向性を明らかにしたことが好感され、半導体株や米国への追加投資を発表した現代自動車が上昇した。一方、24 日は米金融引き締めや中国の景気減速に対する警戒感から 1.6%安。25 日は米株価指数が堅調に推移したことが投資家心理を支え、反発したものの、韓国銀行（中央銀行）による利上げや経済成長率見通しの引き下げを嫌気して、26 日は反落した。27 日は前日の米株高を受けてハイテク株を中心に買いが広がり、反発して週の取引を終えた。今週も米株式相場をにらんだ展開か。国内では貿易、物価統計や製造業 PMI が発表される予定。

▼指数チャート

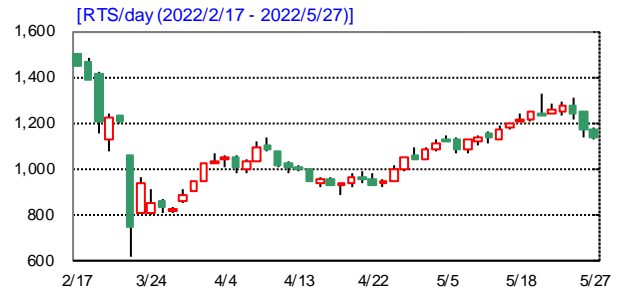


【ロシア】 RTS 指数は 8.5%安と大幅に 5 週ぶり反落、今週も為替相場が左右か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は 8.5%安と 5 週ぶりに大幅反落。利下げを受けてルーブルが急落し、米ドル建ての RTS 指数を押し下げた。週前半の 23-24 日にはルーブル高を受けて連日で 1%超上昇したものの、25 日はロシア中央銀行が 26 日の臨時会合での利下げを示唆したことでルーブルが下落し、指数は 2.7%安と反落。26 日の会合では政策金利を 14.0%から 11.0%に引き下げ、追加利下げも示唆したことでルーブルは対ドルで約 10%下落。指数は 5.2%安と急落した。27 日もルーブル安が重しとなり、指数は 3.5%安と大幅に 3 日続落している。ルーブル建ての MOEX 指数はエネルギー株のけん引で 1.4%高と続伸した一方、ルーブルが対米ドルで 7.6%下落したことが RTS 指数を押し下げた。今週も為替相場に左右される展開か。

▼指数チャート

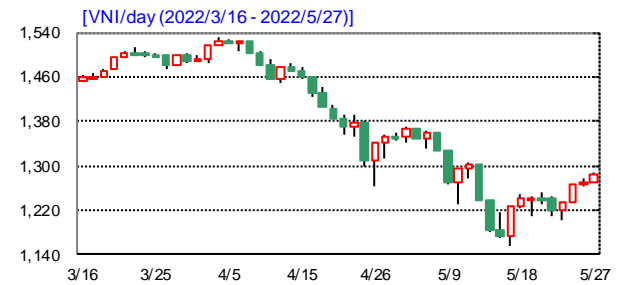


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で 3.6%高と大幅に続伸、今週は引き続き堅調か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 3.6%高と大幅に続伸。先高観を背景に主力大型銘柄に買いが続いた。週明け 23 日は前週末比で 1.8%安と反落したが、24 日は薄商いの中で 1.2%高と反発し、25 日は出来高を伴って 2.8%高と大幅に続伸。前週の高値を上回ったことで買いの勢いが強まった。26 日は横ばいとなったものの、27 日は先高観を背景に 1.3%高と 4 日続伸で週の取引を終えた。個別銘柄では消費財コングロマリットの FPT が 14.7%高、PC・携帯電話販売のモバイル・ワールドが 9.5%高、ゴム製品のベトナム・ラバーが 7.6%高、食品加工のベトナム・デューリー・プロダクツが 7.2%高、エネルギーのペトロベトナム・ガスが 5.3%高、金融のテクコムバンクが 4.9%高、不動産のビンホームズが 4.3%高となった。今週は引き続き堅調か。

▼指数チャート

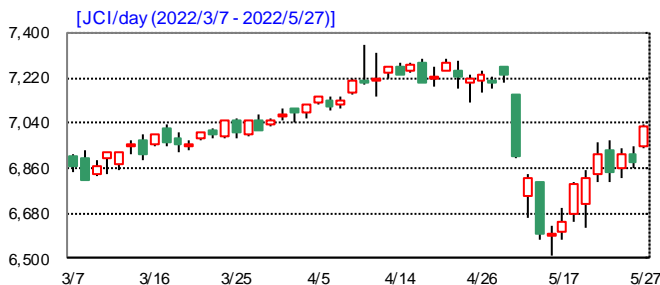


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.6%高、週末に 7000 ポイント台を回復

ジャカルタ総合指数は 4 日間の取引で 1.6%高と続伸。週末に終値で 1 カ月ぶりに節目の 7000 ポイント台を回復した。週初の 23 日は、前週に上昇した反動などで売られ、前営業日比 1.1%安と 5 日ぶりに反落。一方、24 日は中央銀行が定例会合で政策金利を過去最低水準の 3.50%に据え置いたことが好感され、指数は前日比 1.1%高と反発した。25 日は世界経済の不透明感が嫌気されて売られたが、祝日を挟んだ 27 日は、前日の NY ダウが大幅上昇した流れを引き継ぎ、前営業日比 2.1%高と反発している。今週は 2 日に 5 月の CPI が発表される予定。1 日は「パンチャシラ（建国 5 原則）の日」の祝日で休場となる。

▼指数チャート

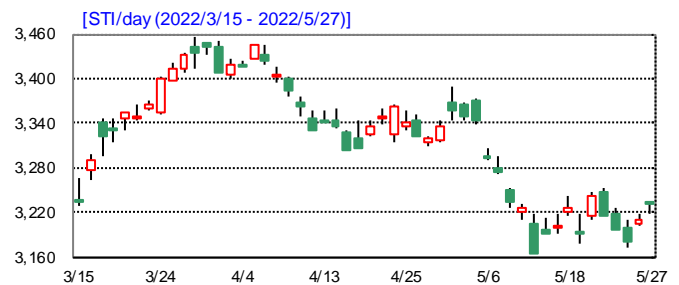


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 0.3%安、CPI 上昇率の高止まりでインフレ懸念が拡大

スレーツタイムズ指数は週間で 0.3%安と反落。週後半に買い戻されたが補えなかった。週初の 23 日は、4 月の前年同期比の CPI 上昇率が前月に続き 5%台の高い伸びとなり、インフレ懸念が高まった影響で、指数は反落。24 日に終値で 3 営業日ぶりに節目の 3200 ポイントを割り込むと、25 日は 1-3 月期の GDP 確定値が前年同期比 3.7%増と速報値の 3.4%増を上回ったものの買い材料視されず下値を広げた。ただ、26 日は 4 月の鉱工業生産が市場予想から上振れした効果などで 4 日ぶりに反発。27 日は続伸して取引を終えた。今週は 2 日に 5 月の製造業 PMI、3 日に 4 月の小売売上高が発表される予定。

▼指数チャート

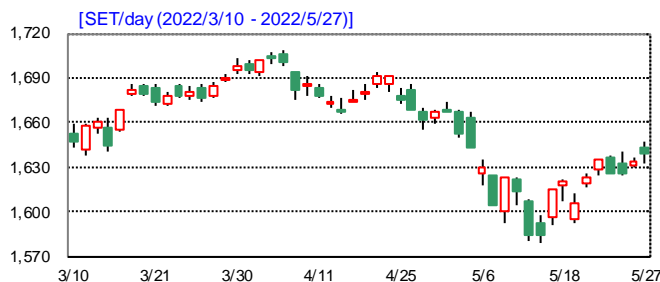


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.0%高、規制緩和で観光・銀行株に買い

SET 指数は週間で 1.0%高と続伸。国内要因が指数を支えた。週初の 23 日は、新型コロナの感染対策として実施されてきた入国制限の段階的な緩和を受けて観光や運輸株が買われたほか、中央銀行による不良資産の売却に関する条件緩和で銀行株も上がり、指数は続伸。24-25 日は米 FOMC 議事要旨の公表を控えた様子見で下落したが、26 日は内容が想定内だったことで買い戻された。27 日は 4 月の貿易収支（通関ベース）が市場予想から下振れし、3 カ月ぶりの赤字となったものの影響は軽微で続伸して週の取引を終えている。今週は 30 日発表の 4 月の鉱工業生産が焦点。3 日は王妃誕生日の祝日で休場となる。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.2%安、週前半の利益確定売りが痛手

クアラルンプール総合指数は週間で 0.2%安と反落。週前半の下落が響いた。週初の 23 日は、プランテーション株に利益確定売りが出た影響で、指数は 3 営業日続落。24 日は引け際に売られて下値を広げたが、25 日は 4 月の CPI 上昇率が前年同月比 2.3%と 4 カ月連続で 2%台の伸びにとどまった効果で 5 日ぶりに反発した。26 日は米国の金融引き締めが年内に終了するとの見方が浮上したほか、中国株が政府の景気刺激策を受けて上昇したことが買い材料となり続伸。27 日は引け際に大型株の一角が買われ、上値を広げて取引を終えた。今週は中国の 5 月の製造業 PMI などの外部要因が指数を左右する展開か。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。